

株式会社かりさら

代表取締役 安里 香織さん

事業内容

沖縄県沖縄市を拠点に、在宅ワーカーを活用したホームページ制作・管理、大量入力業務、テープ起こし、データ集計、取材代行などの各種サービスを提供するほか、自社でECサイトの運営を行う。登録スタッフは、沖縄県在住者を中心に約300名。

<http://karisara.co.jp/>

ポイント

- ・人が嫌がる仕事でも、丁寧にを行うことで、信頼を獲得
- ・在宅ワークの強みを活かせる分割発注

I 模索してつかんだ「沖縄スタイル」

創業前、安里さんは銀行に勤務していたが、結婚・出産を機に退職した。二人目の子供の出産後、外で働きたいと思ったが、住んでいた宮古島では雇用してくれる会社が見つからなかった。当時、知人から「SOHO」という言葉を聞き、自分のように何らかの理由があって自宅で働きたい場合、「在宅ワーク」という働き方があることを知った。特別な技術がなくても、「実績を積み、認めてもらうこと」と「人が嫌がる仕事も引き受けること」が仕事につながるのではないかと考え、在宅ワークを始めるとして2000年1月1日にオフィスかりさらとして創業した（現在は株式会社かりさら）。同時に、県外に所在する在宅ワークのエージェントに登録した。

パソコンの送受信技術が発達していなかった当時、エージェントから郵便で原稿を受け取る必要がある沖縄の在宅ワーカーは、費用と時間の面で不利であり、なかなか仕事を得ることができなかった。この状況を打開すべく、安里さんは、地元で営業活動をした。

在宅ワークと関係のない仕事や、人が嫌がるような細かくて面倒な仕事でも引き受けているうちに、創業半年後くらいから仕事が増えはじめた。例えば、ファックス修理の手配などを引き受けた顧客が、名刺やはがきの作成業務を発注してくれた。また、地元の公的機関のホームページを制作したことが「離島の主婦が行政のホームページ作成を請け負った」として雑誌記事になり、その後、ホームページの制作依頼が増加した。

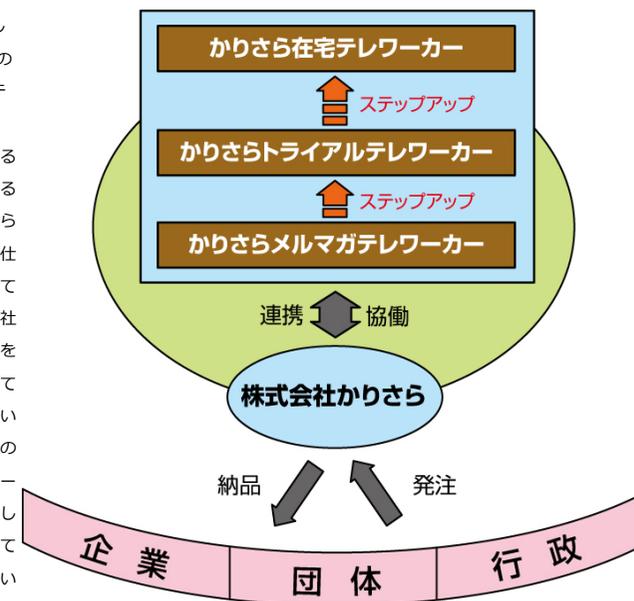
II 在宅ワーカーを育成する仕組み

依頼される仕事の幅が広がるにつれて、デザインなど、安里さんだけではできないことが増えたため、自分のホームページで、一緒に仕事をする在宅ワーカーの募集を始めた。安里さんの活動が行政等に取り上げられた効果もあり、登録スタッフは急増した。

同社は、「メルマガテレワーカー」及び「かりさらトライアルテレワーカー」から始まり、「かりさら在宅テレワーカー」にステップアップしていく仕組みを導入している。具体的には、在宅ワーカー登録の間口を広くして、メルマガテレワーカー（約150人）には、同社から情報を

提供し、トライアルテレワーカーには、最長3ヶ月間、トライアルとして実際の仕事を体験してもらう。その後、面接等を経て、1割程度が在宅テレワーカーとなる。

安里さんは、在宅ワークは、「やる気・勇気・根気」があれば始められるが、時間単価が高い仕事をすぐに得られるわけではなく、時間単価の安い仕事でもしっかりとこなして信頼を得ていくことが必要だと考えている。同社では、在宅テレワーカーの育成に力を入れるとともに、スカイプを活用して勉強会やミーティングを開催している。また、在宅ワーカー同士で仕事のノウハウを交換したり、先輩ワーカーが後輩ワーカーに経験を話すなどして、モチベーションを保つ工夫をしている。在宅ワーカーが孤独を感じないようにするための、安里さんの配慮である。



III 「スピーディな納品」と「8割仕上げ」

安里さんが考える在宅ワーカーを活用するメリットは、「仕事の速さ」である。同社ではチームを編成して仕事をするが、例えば、2時間のテープ起こしを4～5人に分けることで、スピーディに納品できる。担当マネージャーがついて一連の作業の管理（進捗管理、チェック作業、とりまとめ、納品）やクライアントとのやり取りを行うため、品質の担保やクライアントからの要望への対応などにも不安はない。

加えて、同社では、在宅ワーカーの活用による「8割仕上げ」を提案している。例えば、会議の議事録を在宅ワーカーが8割作成し、残りの2割をクライアントが仕上げることにより、クライアントのコストや時間を削減しつつ、発言のニュアンスを的確に汲み取った議事録を仕上げることができる。

IV 今後の「沖縄スタイル」に向けて

同社は、2011年7月に法人化した。今後は契約社員の導入を検討している。固定報酬を出す代わりに、週1日でもよいので出勤してもらい、在宅での仕事分は上乗せの報酬とすることで、一定の報酬を得られる安心感と自由な時間の両方が得られると考えるためである。外で働くメリットと在宅就業のメリットの両方を備えた働き方を沖縄で実現すること、それが安里さんの想いである。